灯をみる
we stare at the light

林 勇気
hayashi yuki

ギャラリー・パルク
Gallery PARC

KG+

Gallery PARC

GRAND MARBLE

Press Release:2024.03.22

灯をみる
we stare at the light

林 勇気
hayashi yuki

2024年4月13日［土］── 5月12日［日］

蝋燭の灯で「忘れられない一日」に撮影された写真をみる。

その時間を他者と共有する。

そんな場と時間を作りたいと思った。

蝋燭の灯で映写できる幻灯機を制作した。

制作にあたり、明治時代の幻灯機を参照した。

暗闇の中で蝋燭が灯り、写真のイメージが立ち上がる。

幻灯機で映写された一枚の写真を静かにみつめる。

写真に内包されるストーリーに思いを馳せる。

灯で映写された写真は淡く、暖かい色で不鮮明だ。

時間が経過し蝋燭の灯は燃え尽きて消えてしまう。

はかない映像はあなたと私の心の奥に小さな光を灯す。

残像と共に。

林 勇気

Gallery PARC
GRAND MARBLE

Press Release:2024.03.22

灯をみる
we stare at the light
林 勇気
hayashi yuki
2024年4月13日［土］── 5月12日［日］

出展作家　林 勇気
hayashi yuki

展覧会名　灯をみる
we stare at the light

会　期　2024年4月13日［土］── 5月12日［日］　13時から19時まで　水・木休廊　入場無料

＊＊

ギャラリー・パルクでは7年ぶりとなる林勇気の個展「灯をみる」では、林の近作・新作のいくつかを展示するとともに、蝋燭の灯による幻灯機によってイメージを映写する「場と時間」をも作品として提示します。
本展に先立って林は、『あなたにとって「忘れられない一日」の写真をそのエピソードとともに送ってください』と広くに呼びかけ、多くの「写真とそれにまつわるエピソード」を収集しました。林は寄せられた多くの人たちの「忘れられない一日」の写真からガラス製映写用スライドを制作し、蝋燭の灯を光源とするオリジナルの幻灯機によって、会場で映写します。こうして灯が消えるまでの間、暗闇に浮かび上がる「いつかの・誰かの」イメージは、その場にいる鑑賞者に見つめられ、共有されことになります。
他者のプライベートな記憶の断片。記録と呼ぶには不確かな写真。蝋燭によって揺れる灯がつくりだす映像のようなうつろい。蝋燭が燃えつきることで浮かび上がる残像としてのイメージ。この「場と時間」で私たちが見つめ・共有する（した）ものははたして何なのでしょうか?

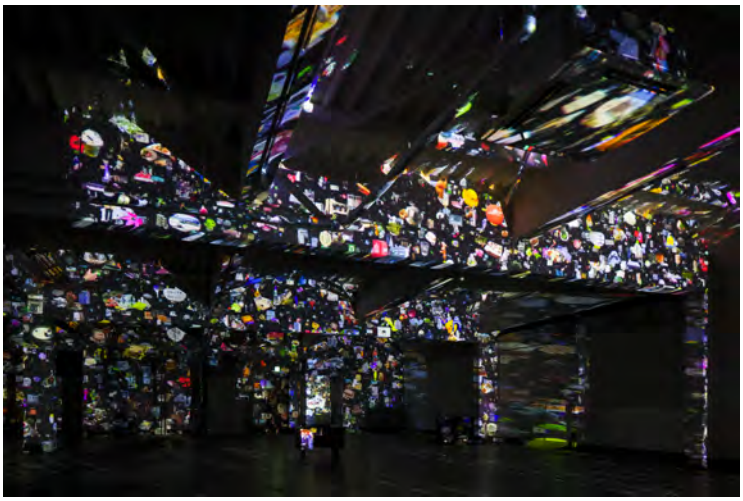
本展では毎時00分ごとに、スタッフによってプロジェクターや照明の電源を切り、オリジナルの幻灯機に蝋燭に火を灯してスライドの映写をおこないます。
（1日7回・各回10分程度・スライドは毎回異なります）
＊映写中はその他の展示作品の鑑賞は不可能となる点、あらかじめご了承ください。

＊＊＊

幻灯機制作協力：山内 鈴花
制作協力：Gallery PARC、八木 慎二郎
出演者・制作参加協力：板金 夏音、植木 明日香、内田 好美、石井 誠、芦谷 由香、大石 英史、大歳 芽里、岡野 菜直、島本 恋奈、畑井 恵、野口 彩陽
翻訳：岡本 佐知子

会場・主催　ギャラリー・パルク
Gallery PARC
602-8242 京都府京都市上京区皀莢町287 堀川新文化ビルヂング 2階　075-334-5085 / info@galleryparc.com / www.galleryparc.com

アクセス　◯地下鉄烏丸線「丸太町」・「今出川」駅より徒歩約20分 ◯地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩約18分 ◯京都市バス9番・50番（JR京都駅から約22分）・12番（阪急烏丸駅から約15分）・67番（阪急大宮駅から約12分）系統「堀川中立売」バス停下車徒歩1分
◯駐輪場・駐車場 有 ※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。



林 勇気

https://kanyukuyuki.tumblr.com/

映像作家。膨大な量の写真をコンピューターに取り込み、切り抜き重ね合わせることでアニメーションを制作。自ら撮影した写真のほか、人々から提供された写真やインタビューを素材とした制作により、デジタル・メディアやインターネットを介して行われる現代的なコミュニケーションや記憶のあり方を問い直す。近年は他領域とのコラボレーションや、ワークショップを通しての作品制作も多数試み、映像が内包する拡張性や協働的な側面について模索している。

おもな展覧会に、2011年・個展「あること being/something」(兵庫県立美術館)、「HUMAN FRAMES」(KIT Kunst im Tunnel / デュッセルドルフ、ドイツ 、Substation / シンガポール)、2013年・「あなたがほしい　i want you」(WELTKUNSTZIMMER / デュッセルドルフ、ドイツ)、2014年・「窓の外、恋の旅—風景と表現」(芦屋市立美術博物館 / 兵庫)、2015年・「アンカラ国際映画祭」(アンカラ、トルコ)、2016年・個展「電源を切ると何もみえなくなる事」(京都芸術センター)、2017年・「彼方へ」(静岡市美術館)、「未来への狼火」(太田市美術館・図書館 / 群馬)、2020年・個展「ANIMATION」(奈良市美術館) 、「KYOTO STEAM 国際アートコンペティションスタートアップ展」(京都市京セラ美術館 / 京都)、2021年・「オーバーハウゼン国際短編映画祭」(オーバーハウゼン、ドイツ)、「EXiS Experimental Film and Video Festival in Seoul」(ソウル劇場 / ソウル、韓国)、「CYFEST-13 International Media Art Festival, ビデオプログラム」(エルミタージュ美術館 ユースエデュケーションセンター / サンクトペテルブルク、ロシア)、2022年・個展「君はいつだって世界の入り口を探していた」(クリエイティブセンター大阪 / 大阪)、「テールズアウト」(大阪中之島美術館 / 大阪)、「デザインスコープ - のぞく ふしぎ きづく ふしぎ」(富山県美術館 / 富山) 、「ドリーム／ランド」(神奈川県民ホールギャラリー / 神奈川)、2023年「境界をこえる」(徳島県立近代美術館 / 徳島)、「M+ at Night: Seen and Unseen」(M+ / 香港)

主な作品収蔵・作品設置には、徳島県立近代美術館、兵庫県立美術館、大阪国際空港などがある。

個展「君はいつだって世界の入り口を探していた」会場風景
2022年・クリエイティブセンター大阪 / 大阪
撮影・麥生田兵吾